

日本比較文化学会

2005年11月 No. 29

JACC 比較文化会報

本部事務局 〒036-8577 弘前市稔町13-1
弘前学院大学英語英米文学科佐藤研究室
電話 (0172) 34-5211 内線 216

発行者 芳賀 馨
編集者 成沢 義雄

日本比較文化学会第27回大会ご案内
2005年度の会場校は福岡女学院大学で開催
博多へ来んしゃい

市川鄂康 九州支部長

日本比較文化学会第27回大会は2005年6月11日(土)にアジアの交流拠点都市、福岡市の福岡女学院大学に於いて開催することになりました。九州での全国大会は1993年の長崎、1999年の久留米に続き、3回目を迎えました。開催地となる福岡市は中国大陸、朝鮮半島に近い九州の中核都市であり、古くから大陸文化の受け入れ窓口としての機能を果たしてきました。紀元前4世紀には、日本最初の水田稲作が開始。志賀島で発見された金印は、1世紀頃の大陸との交流を物語る貴重な資料となっています。

黒田藩 52万石の城下町の時代から那珂川を境に東がわを町人の町「博多」、西がわを武士の町「福岡」と言っていました。そのため都市の名前は福岡市で、駅の名前は博多駅となっています。

市中心部の天神・博多駅地区は九州全体の行政機関、商業、交通の中核であり、アジアに開かれた商業都市としての土壌の上に、戦後は九州の拠点都市として、主要企業の支社、支店及び地元企業のサービス・金融業等の集積が進み、高次元を持つ第3次産業を主体とした産業構造を形成しています。

福岡市の人口は139万人で、最も人通りの多い繁華街は天神地区であり、300メートル範囲内に3つのデパートがあり、年間の人出は約1億人と言われています。その他九州最大の歓楽街である中洲地区や若者の歓楽街「親富孝通り」等があつて多くの人出で賑わっています。

また、博多ならでの織物や人形等の特産品をはじめ、食の都、博多を代表する新鮮な魚介類、水炊き、ラーメンと共に美味しい地酒と焼酎が会員の皆さま方のご出席を心からお待ちしております。

今回のシンポジウムのテーマは「多文化交流から多文化共生」です。多文化共生社会とは、異なる文化的背景をもつ人々がそれぞれの文化の独自性を尊重し、多様性を活かしながら、言語や文化の違いを超えて「共生」していく社会のことです。このような社会においては、全人類に共通した脱国家的行動、態度やグローバルな視点での判断力・思考力が求められます。どうぞシンポジウムや研究発表に積極的にご参加いただき、少しでも有益な知見を提供していただければと思います。

第27回日本比較文化学会大会概要：下記の通り、2005年6月11日(土)、福岡女学院大学でシンポジウム、研究発表等を開催する運びとなりました。シンポジウム

に、研究発表に今回もまた奮ってご参加くださいますようお願い致します。

大会開催日 2005年6月11日(土)

大会会場 福岡女学院大学

問合先 長崎ウェスレヤン大学 有門 恵 〒854-0081 長崎県諫早市栄田町1057

電話:0957-26-1234(代表) ファックス:0957-26-2063(代表)

研究発表希望者へ

1. レジュメをA4版横書き1枚にまとめ、左右の余白を2.5センチ残して下さい。
2. 2003年2月28日必着で上記有門恵宛に郵便書留で送って下さい。

シンポジウム講師の推薦

次年度第27回大会のシンポジウムのテーマは「多文化交流から多文化共生へ」に決定しております。各支部は1月31日までに講師を推薦して下さい。

推薦された講師は上記研究発表1および2の要領で、有門恵宛にレジュメをお送り下さい。なお、シンポジウムの司会者は九州支部で引き受けることになります。シンポジウムの司会者は選ばれた講師の方と連絡を取り合って大会に備えて下さい。

2004年度各支部活動報告

南・北東北及び関東支部

関東、北東北、南東北の三支部合同の大会が、11月27日(土) 午後1時30分から東北学院大学の同窓会館で、下記プログラムのとおり開催されました。

開会の辞 東北学院大学 菊地 弘

- | | | | |
|---|------|----------------|--------|
| I 研究発表 | 司会 | 東北学院大学 | 鈴木瑠璃子 |
| 「ジャパニーズスマイル その1-和の国日本から世界に向けて平和の笑みを発信する-」 | | 東北学院大学 非常勤講師 | 田口 桂子 |
| 「コンチータスの鳥-過去と現在-」 | | 弘前学院大学 | 佐藤 幸正 |
| II 研究発表 | 司会 | 東北学院大学 | 成沢 義雄 |
| 「英語表現の諸相」 | | 新島学園短期大学 | 前田 浩 |
| 「English as an International Language としての英語教育」 | | 育英短期大学 | 高橋 強 |
| III. 講演会「これからの社会を考える」 | 講師 | 前群馬県副知事 | 高山 昇 氏 |
| IV. 「サロン比較文化」立ち上げについて | | | 太田 敬雄 |
| V. 芳賀馨会長 喜寿祝賀会 | 有志一同 | | |
| VI. 懇親会 | 進行係 | 東京都立航空工業高等専門学校 | 栗原 優 |

研究発表会は、時間をオーバーして活発な質疑応答のもとにすすめられた。続いて、講演会が行われました。講師には、前群馬県副知事高橋昇先生においでいただきました。副知事としての経験をもとに、現代社会を俯瞰するお話と同時に、われわれが抱える問題を具体的に浮き彫りにされ、大変有益な講演会となりました。先生には深く感謝申し上げたいと思います。

次に、より気楽な気持ちで比較文化に関する話題を取り上げ、話し合う場を設けようと「サロン比較文化」の立ち上げが行われた。会員の皆様には、近いうちに、太田先生のほうからもっと具体的な形で説明がなされることでしょう。

当学会の会長である芳賀馨先生には、今年めでたく喜寿を迎えられました。有志一同の主催による喜寿のお祝いが開かれ、先生のますますのご健康を願って花束と記念品の贈呈が行われました。また、電報をお送りいただいた先生方には、紙面をもって御礼を申し上げたいと思います。最後に懇親会に入り、研究会の出席者が一人もかけることなく、和気あいあいのうちに終了いたしましたこと報告させていただきます。

(南東北支部 菊地 弘)

関東支部報告

支部例会・総会報告

日時 2004年10月22日 場所 :高崎市北公民館第1会議室

研究発表会

1. 高橋 強 (育英短期大学) 「LEXIS 英和辞典を利用した英語教育」
2. 湯浅清四郎 (新島学園短期大学) 「遊び歌(わらべうた)はこどもの何を育てるのか」

総会

1. 支部役員人事について総会を開催し新役員を決定しました。(2004年10月22日発効)
支部長 野口周一
副支部長 栗原 優、小林俊哉、佐藤公彦
支部幹事 高山由紀、前田 浩、太田敬雄
2. 支部例会について:今後、年3回の予定で支部例会を開催する。2005年1月(新島短大)、3月(都立航空高専)、9月(育英短大)を検討中
3. 支部会費について:年会費1000円を徴収する。(太田敬雄)

関西支部報告

◇ 3月例会

日時 2004年3月6日(土)14:30~17:00

場所 同志社大学今出川キャンパス弘風館 22 番教室

研究発表

1. 松本知子 (同志社大学) “A Multiple Network of *Find-Construction*”
 2. 大野裕之 (龍谷大学) 「チャップリン映画の歌舞伎翻案について・再論」
- 講演
丸橋良雄 (京都大学) 「Wild 喜劇と日本人—ダンディのレトリック」

◇ 12月例会および総会

時 2004年12月11日(土)14:00~17:00 場所 同志社大学今出川キャンパス至誠館1番教室

1 総会

(1)2003年度決算報告 (2)2004年度予算報告 (3)その他

2 研究発表

- (1) 「円卓の騎士団」その栄光と没落—「トリストラム卿の書」より—
森ユキエ (同志社大学大学院文学研究科博士課程後期)
- (2) エレンはく新しい女—『エイジ・オブ・イノセンス』における衣服と絵画—
林奈美子 (同志社大学言語文化教育研究センター嘱託講師)
- (3) 映画『ロリータ』に見る詩的映像表現
坂本季詩雄 (京都外国語大学外国語学部助教授)

3 講演「シェークスピアを科学する—計量文献学の世界」

同志社大学文化情報学部設置準備室教授 村上征勝

中四国支部報告

支部例会

日時 2004年6月26日(土)13:00~17:00 場所 高知大学メディアホール(図書館6F)

研究発表 司会 知大学人文学部 奥村 訓代

- 1 身長が非言語コミュニケーションに与える影響
～テレビにまつわるステレオタイプと長所～ 高知大学大学院 王 君譚
- 2 第1言語話者と相互理解 韓瑞大学・韓国 公文素子
- 3 日・タイ国際結婚と異文化間コミュニケーション 高知大学大学院 ナモン・ポンスポット
- 4 日本語とインドネシア語の外来語について 名古屋外大大学院 吉金 秀基
司会 高知大留学生センター 神崎道太郎
- 5 高齢化社会における「カタカナ語」の諸問題
—介護福祉施設での現地調査を基に— 高知大学大学院 井上和真
- 6 挨拶表現における「お疲れ様」の役割
— コミュニケーションの視点から— 高知大学大学院 楊 金爽
- 7 「のに」「けれど(も)」—認知言語学からの一考察— 香川大学 山下明昭
閉会の辞 香川大学 山下明昭 (副支部長・)

去る6月26日(日)、高知大学朝倉キャンパスにおいて平成16年度(2004)研究集会が開催された。

参加者は98名と四国地区としては多く、研究集会としての評価も高く有意義であったという感想が多かった。今回の学会は翌日に日本語教育学会中四国支部・研究集会をリンクさせる形で2日間に渡り行われた為、参加者延べ人数約200名、研究発表12本と日本語・日本文化研究がたっぷりと楽しめた。(奥村 訓代)

中国四国支部・関西支部・九州支部支部合同大会

日時 2004年10月23日(土)13:00~16:00 場所 徳島文理大学香川キャンパス

研究発表

- 会場A(図書館5F講義室2) 司会 長谷川陽一郎 (徳島文理大学)
- 第1発表者 ノエル・カワードとアメリカ 赤井朋子 (神戸薬科大学)
- 第2発表者 ブレンダン・ビーアンの“The Quare Fellow”について
伊東恵一 (京都大学大学院)
- 第3発表者 ブレイク、キャロル、バリーと大正デモクラシーの子供像
北村賢介 (九州大学)
- 第4発表者 終助詞「か」「よ」「ね」の機能 篠田 裕 (徳島文理大学)
- 会場B(図書館5F講義室3) 司会 篠田 裕 (徳島文理大学)
- 第1発表者 「お疲れ様」の役割 楊金爽 (高知大学大学院)
- 第2発表者 三国志演義に見る待遇表現 邢文柱 (久留米大学大学院)
- 司会 中島正太 (徳島文理大学)
- 第3発表者 朝鮮映画における満州 金麗実 (京都大学大学院)
- 第4発表者 教養としての身体運動文化 和田匡史(代表発表者徳島文理大学)
山本憲志 (日本赤十字北海道看護大学)

会場 C(図書館5F 講義室4) 司会 三浦秀松 (徳島文理大学)
 第1発表者 共通テキストの作成とネットワーク学習プログラムの導入—徳島文理大学の英語教育における試み— 中島正太・堀口誠信<代表発表者>石崎一樹・伊藤徳文・篠田裕・長谷部陽一郎(徳島文理大学)
 第2発表者 栄養系の学生における英語教育 福田真司 (中村学園大学)
 第3発表者 日本語教育の新しい方向性 奥村訓代 (高知大学)
 第4発表者 「から」・「ので」—認知意識をふまえて— 山下明昭 (香川大学)
 講演(図書館3F AV ホール)司会 岡地尚弘(徳島文理大学)
 日本における連載小説の源流 “つづきもの”について
 —その発生から商品化されるまで— 佐々木 亨 (徳島文理大学)

《本部事務局だより》

1. 入会希望者へ

本学会に入会を希望する方は、本部事務局へ「入会申込書」を提出して下さい。折り返し必要書類をお送り致します。入会申込書は本部事務局に備えてあります。

2. 論文掲載希望者へ

学会誌『比較文化研究』は年に4回発行しております。掲載をご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。ただしレプリカ制を採用し、掲載費用および別刷りは著者負担となります。本冊10部までは無料です。

論文投稿者は本部会員に限りますので、ご注意下さい。

(3月末日締切)

〒854-0081 諫早市栄田町1057 電話 0957-26-1234

長崎ウェスレヤン大学南川研究室内 日本比較文化学会九州支部

(6月末日締切)

〒116-8523 東京都荒川区南千住 8-52-1 電話 03-3801-0145

東京都立航空工業高等専門学校栗原研究室内 日本比較文化学会関東支部

(9月末日締)

〒981-3105 仙台市泉区天神沢 2-1-1 電話 022-773-3337

東北学院大学教養学部菊地弘研究室内 日本比較文化学会南東北支部

(12月締切)

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3 電話 0774-65-7070

同志社大学言語文化教育研究センター 山内信幸研究室内 日本比較文化学会関西支部

3. 近況報告、支部活動報告、研究部会報告、新刊紹介などを『比較文化会報』

に投稿希望の方は次の要領でご応募下さい。(1)近況報告(130字以内)

(2)新刊書、編註書の紹介(130字以内) (3)エッセイ投稿(500字以内)

(4)支部報告、研究部会報告(1,000字以内)

投稿締切日 毎年6月30日(第1回締切日)および毎年12月25日(第2回締切日)

投稿先 〒036-8577 弘前市稔町13-1 電話 0172-34-5211(代)

弘前学院大学文学部佐藤研究室内 日本比較文化学会 E-mail:satoh@hirogaku-u.ac.jp

受贈図書

☆古賀元章・川尻武信共編著『海外旅行者が知っておくと得する税関』大学出版、2003年。

☆古賀元章著『T. S. エリオットの詩劇の研究—人間愛の研究—』大学出版、2003年。

☆古賀元章・川尻武信共訳 Japanese Customs in Brief (『日本の税関を英語で理解する』)大

学出版、2002年。 ☆古賀元章・早川康博・須田有輔共著 *An Introduction to Fish and Environment* (『わかりやすい魚 と環境の話』) 大学出版、2002年。

☆鹿島英一著『旅の歳時記』—異文化交流論集—白砂ヶ濱、2004年。 ☆鹿島英一編著『大学生のための短期留学』—オセアニア・アジア・中東—風間書房、2004年。

☆『日本教科教育学会誌』第27巻第2号(2004年9月)。

近況報告

◎ 佐藤幸正先生とのメールのやりとりの中で、先生の研究室にはエアコンがないと聞き、驚きと同時に気温の差を感じました。長崎ではエアコンなしでは夏は絶対過ぎせない!

私が明日から訪れるカンボジアとタイもとても暑い国ですが、日本と比べると過ごしやすいような気がします。今カンボジアは雨期なので、突然のスコールに襲われる可能性は大なのですが。

カンボジアでは就学支援をしている孤児院を訪問します。南川先生の友人であるソン・スービャート氏が二つの孤児院を運営されていて、そこへ皆さんの善意で寄せられた寄付金や衣類、文具を持っていきます。今回訪問するプノンペン郊外の孤児院では、約100人の幼稚園児から高校生までの子どもたちが一緒に生活しています。お兄さん、お姉さんが小さい子どもたちの面倒を見ている姿は微笑ましいものです。そして、カンボジアの子どもたちの無邪気な笑顔に癒され、元気づけられます。今年は念願が叶い、孤児院から3人の子どもをタイの大学へ進学させることができました。タイの大学の学費1年分、家賃・光熱費1年分、食費1年分、全てあわせて1人あたり30万円しかかかりません。卒業までの4年間支援を継続させなければいけないというプレッシャーはあるのですが…

南川先生が中心となって、カンボジアの子どもたちに勉強させてあげたい、何とか支援したいという思いからこの活動を始めました。まだ2年目ですが、一人でも多くの子どもが勉強できるよう支援を続けていきたいと頑張っています。(有門 恵 長崎ウェスレヤン大学)

◎ 昨年、10月末から11月初めにかけて、ラマダンの最中のブルネイとインドネシアに行ってきました。イスラム世界が悪の巣であるかのような報道を連日見聞きしながら、ラマダンを自分の目で見、肌で感じたいと思っていたところでした。ほんの数日の旅行で、どれだけ見えたかは疑問ですが、イスラムの人達が真剣に自分たちの生き方を守ろうとすると共に、他の文化・宗教に対して寛容であろうとする姿に感銘を受けて来ました。インドネシアのブラウイジャヤ大学で日本語を教えているJACC会員の荒井美幸さんが、受け入れ準備をしてくれましたので楽しい旅行になりました。大勢の日本語を専攻する大学生と会えた事も喜びでした。彼等の家族に地震・津波の被害の無かった事を祈っています。(太田敬雄 IIMS)

編集後記

☆会報29号遅れましたが、お届けいたします。今回は、これまでの4ページから8ページの会報となりました。これは比較文化学会の活動が昨年は、各支部及び支部合同活動が活発に展開され、会員諸氏の研究活動が活性化したことを如実に物語っています。その報告はとてども従前通りの4ページには収まりませんでした。もう一つの新たな試みは会員からの近況報告を掲載しました。これからも会員諸氏の近況報告をできるだけ掲載したいと願っています。

私事で恐縮いたしますが、昨年11月に比較文化学会会員の町屋氏と共にフィンランド言語学会で研究発表しました。日本人は私たちだけでした。今年も、会員諸氏の国内外での一層のご活躍を期待いたします。(成沢)

☆成沢先生が折角8ページに作成された『会報』ですが、印刷の都合で6ページにまとめさせていただきました。内容には変更ありません。読み辛い所は私の責任です。数行余ってしまいましたので、私自身の近況を埋め草に加えさせていただきました。(太田)